

再 評 価 書

箇所名	林道三和片川線	事業名	林道事業	課 名	治山林道課																			
事業概要	工 期 (下段前回)	昭和 49 年～平成 39 年	全体事業費 (下段前回)	7,635 百万円(負担率:国 50:県 50)																				
		昭和 49 年～平成 39 年		7,635 百万円(負担率:国 50:県 50)																				
事業目的及び内容																								
<p>(1)所在地 熊野市紀和町和気地内の県道小船紀宝線を起点とし、同町小栗須地内の国道311号を終点とします。</p> <p>(2)事業の目的 路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とします。</p> <p>(3)全体計画 ① 延長 : 32,260m ② 幅員 : 5m(天瀬～楊枝川区間は平成14年度から4mに縮減) ③ 事業費 : 7,635,177千円(237千円/m) ④ 事業期間: 昭和49年度～平成39年度(54年間)</p> <p>(4)利用区域の森林資源の状況 当該路線の利用区域面積は2,496ha、そのうち人工林1,520haで、人工林率は61%です。人工林の86%が46年生以上となっており、豊富な森林資源が利用時期を迎えています。</p>																								
事業主体の再評価結果																								
<p>1 再評価を行った理由 平成25年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p> <p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1)事業着手 昭和49年度に布引工区で工事着手。早期の完成を図るため、天瀬工区・楊枝川工区・小栗須工区と順次工区を拡大。しかし、国・県の財政事情から、平成30年度は小栗須の1工区のみで工事を実施。</p> <p>(2)進捗状況(平成29年度末の事業量) ① 開設延長 : 24,231m (進捗率 75.1%) ② 事業費 : 5,880,900千円(進捗率 77.0%)</p> <p>(3)課題 県予算の状況が年々厳しくなっていることから、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指します。</p> <p>(4)利用区域内の森林整備状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3" style="text-align: center;">H30調査時点</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">整備面積</th> <th style="text-align: center;">うち主伐</th> <th style="text-align: center;">うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24までの実績</td> <td style="text-align: center;">864.36 ha</td> <td style="text-align: center;">96.31 ha</td> <td style="text-align: center;">633.07 ha</td> </tr> <tr> <td>H25～29の実績</td> <td style="text-align: center;">152.51 ha</td> <td style="text-align: center;">2.16 ha</td> <td style="text-align: center;">124.03 ha</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">1,016.87 ha</td> <td style="text-align: center;">98.47 ha</td> <td style="text-align: center;">757.10 ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5)その他利用区域内の状況 三重くまの森林組合や森林所有者などにより、これまで約12,500mの作業道等が開設され、間伐等の森林整備や木材生産が実施されました。</p>							H30調査時点			整備面積	うち主伐	うち間伐	H24までの実績	864.36 ha	96.31 ha	633.07 ha	H25～29の実績	152.51 ha	2.16 ha	124.03 ha	合計	1,016.87 ha	98.47 ha	757.10 ha
	H30調査時点																							
	整備面積	うち主伐	うち間伐																					
H24までの実績	864.36 ha	96.31 ha	633.07 ha																					
H25～29の実績	152.51 ha	2.16 ha	124.03 ha																					
合計	1,016.87 ha	98.47 ha	757.10 ha																					

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 周辺環境の変化

- ①熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町が合併しました。
- ②熊野市では、平成20年度に第1次総合計画を、平成30年度には第2次総合計画を樹立し、施策①「市民と共存する豊かな森づくり」、施策②「森を支える人と組織づくり」の2つの施策を掲げており、森林の適正管理、林道・作業道の路網整備や林業後継者の育成などに取り組んでいます。
- ③平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めています。
- ④林業作業については、プロセッサやグラブプル、フォワーダーなどの高性能機械が普及しつつあり、機械作業による造材や集材の効率化が進んでいます。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回再評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】H25年度時	
B(便益)	12,553 百万円
C(費用)	12,284 百万円
B/C	1.02

② 費用対効果分析の結果

費用便益比(B/C)

B/C	B(便益)	C(費用)
1.01	総便益(B)	事業費(C)
	・木材生産便益	・林道事業費
	・森林整備経費縮減便益	・造林事業費
	・森林の総合利用便益	
	・その他の便益	

③ 感度分析の結果

感度分析の結果(±10%)は、B/C=0.87となっています。

1.0を下回っていることから、以下のとおり、事業の必要性和今後の対策について検討しました。

・事業の必要性和今後の対策

林道三和片川線の開設について、熊野市からは林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、自然豊かな観光資源へのアクセスや生活道、また避難道路としての役割もあることから事業継続を強く望まれています。

林道三和片川線は当該地域の森林整備を進めていくうえで欠かせない主要な林道であり、当林道を開設する以外に代替案もないことから、県といたしましても、関係する市町や地元関係者と連携を図り、より一層森林整備を進めていくとともに、コスト縮減に努めながら早期完成を目指してまいります。

4-2 その他の効果

布引の滝など森林や自然に市民がふれあう機会増進のための短縮路として、また災害発生時には県道熊野川紀和線の迂回路として期待されます。

4-3 地元意向

熊野市では、林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、自然豊かな観光資源へのアクセスや生活道、また避難道路としての役割もあることから事業継続を強く望んでいます。

<p>5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>5-1 コスト縮減</p> <p>波形線形の採用、用途に応じた幅員や路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用することで、土工量と法面保護工を減らすなどによりコスト縮減を図ります。</p> <p>5-2 代替案</p> <p>当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があること、更には観光資源への集客や地域住民の迂回路として地域振興に資することから、当林道を開設する以外に代替案はありません。</p>
<p>再 評 価 の 経 緯</p>
<p>《平成25年委員会意見》</p> <p>事業継続の妥当性が認められることから事業継続を了承するとともに、事業効果の早期発現のため、早期の事業完成に努められたい。</p>
<p>事 業 主 体 の 対 応 方 針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、一層のコスト縮減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。</p>